

# 雑感「樹木葬十周年によせて」

住職 千坂げんぼう



祝賀会での挨拶

久保川流域の生態系保全の試みを理解し取り上げてはくれません。

私の目指すのは、宮沢賢治がイーハトーブと名付けた理想世界を久保川流域に実現することです。そのため、久保川水質浄化の運動をし、放置され荒廃していた林を間伐し、日本の在来種を駆逐するセイタカアワダチソウ除去を続けてきました。来年からは、ウシガエルの駆除にも取り組みます。このように一見無駄なような地味な活動が、何故、理想世界づくりと関係するか不思議に思われる方が多いかもしれません。

八百年前、奥州王ともいべき権勢を振るった奥州藤原氏が残した遺産がユネスコの世界遺産云々と騒がれています。確かに中尊寺、毛越寺に残されている伽藍や史跡は素晴らしいものですが、「歴史的価値があるもの」は、このような権力者が金に飽かせて造ったものだけなのでしょう。

人間は宇宙空間から地球を客体視し、水の惑星の得難さを十二分に認識できる生命体となりました。四十六億年という地球の歴史、三十五億年ほど昔から始まったとされる有機体の発展、一万二千年前から始まった農業の営み、そのような長い地球の歴史を振り返ってみると、自然と人間が織りなして作ってきた里山の

自然は、奇蹟に近いものと言えるのではないのでしょうか。

その里山の自然を大事なものと思わず、高度経済成長に踊らされているうちに、いつの間にか、かつての生き物に満ちた里山は消滅しつつあります。無くなってしまうから、その有り難さを認識するのが人間の常です。最近、里山の重要性が各方面で認識されてきたのは、このような背景があるのです。

幸い、一関の久保川流域には、自然環境の特徴（年間雨量が少ない、緯度的に北限種が多く存在する）と地政学的特徴（磐井丘陵帯のため小さいため池しか作れない、釣り人にとって有用なため池でない）などによって、豊かな生態系が残されています。

色々な動植物が共生している自然は、景観的にも優れているため、人々に安らぎを与えてくれます。このような久保川流域の自然を保全し、皆様に癒しの空間としてもご利用して頂くために、この度、新しく出来た長屋門と知勝院庫裏（樹木葬の里研究所を兼ねます）を拠点にして、久保川イーハトーブ世界づくりに、一層、邁進いたします。

皆様方におかれましても、久保川イーハトーブ世界づくりに格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年、皆様のご支援を受け、樹木葬墓地は十周年を迎えました。

当初は、既成の概念を打ち破るものとしてマスコミの脚光を浴び、そのお陰で、ホームページだけのPRで、契約者が約千五百名となりました。マスコミの報道なしに、この成功は考えられないことは確かです。しかし、マスコミは新奇なもの、珍しいものとしての面のみを報道する傾向が強いです、私の目指す